

宛先



# ニューズレター

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

No. 91

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/lora/index.html>

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/ialt/index.html>

平成30(2017)年3月22日

## 都市空間専門部会

### クリークのまち 建築探訪

建築探訪ツアーを11月28日(土)に開催しました。主催は建築学会佐賀支所と佐賀大学都市工学専攻(担当:後藤隆太郎・中大窪千晶・淵上貴由樹)、低平地研究会から後援をいただき、近県からを含む19名の参加がありました。

佐賀駅に集合し、マイクロバスで多布施川上流の【さが水ものがたり館】へ。荒牧軍治館長から佐賀平野の水網についてレクチャーをいただき、佐賀城下への取水施設:石井樋を見学。次に佐賀市内に移動し三島伸雄氏(佐賀大)の解説により【佐賀県歯科医師会館、設計:坂本一成/アトリエ・アンド・アイ】を見学。その後、城濠沿いの戦後近代建築【清惠庵、設計:堀口捨己】を見学しました。午後は徒歩にて【佐賀県立図書館、設計:第一工房+内田祥哉】【市村記念体育館、設計:坂倉準三建築研究所】、城内から城下町へと移動しながら【松原神社の楠木群や松原川周辺の水辺】、【「深川製磁・佐賀店」・「まちのコンテナ」・「とりのい」・「マチノシゴトバ」】。最後に水路際に建つ【佐星醤油】にてご当主の徳村氏の説明などより改修された商家を見学しました。総じて、クリークのまちの空間とそこでの建築の在りよう学ぶことができました。



## 歴史・文化専門部会

### 近世の筑後川水害と久留米藩による集散地形成

12月9日に久留米大学にて講演会を行いました。近世の久留米藩は、筑後川下流域において人と物が集まる集散地の形成をすすめてきましたが、この背景にはどのような要因があるのか、歴史・文化専門部会では、歴史地理学がご専門の篠倉大樹氏をお招きし、集散地形成の概要とその背景についてご講演いただきました。

久留米に有馬氏が入国した後、用途によって集散地を分散させるのは、上流にある天領・日田や、洪水被害が関連していることを平易に解説していただきました。特に、洪水による浸水の水位を調査してシミュレーション画像に加工した資料は、非常に関心を引くものでした。講演会には50名の参加者がありました。



## 歴史・文化専門部会

### 吉岡誠也・伊藤昭弘編 『天保十五年 阿蘭陀使節船渡来』

天保15年(1844)7月2日、オランダ国王ウィルヘルム二世が開国勅告の国書を携えて軍艦パレンバン号で長崎に来航しました。佐賀藩主鍋島直正が同船に乗り込み艦内を見学したことが、その後の長崎警衛強化の大きな転機であったことは先行研究で指摘されていますが、同船来航に対する長崎警衛問題の研究に関しては意外と少ない。本史料は、主に佐賀藩国許家老から江戸詰家老に宛てた書状の写しを江戸でまとめられたものと考えられ、長崎関役が現地で長崎奉行(所)と協議した内容をまとめて国許へ送った書状や、長崎奉行からの達の写しが添えられており、長崎・佐賀・江戸の間での情報の流れがよくわかる好史料となっています。(本書解題より)。

## 地域創生専門部会

### 見学会「佐賀の歴史」

青森中央学院大学からの「北部九州研修旅行」のために参加した研修学生10人と久留米大学の学生10人と一般参加希望者10人を案内して、佐賀県内の吉野ヶ里、佐賀城本丸公園、肥前名護屋城の見学会を開催しました。

最初に、筑後川の恵みと災害について、青森県の岩木川と比較して、3年に一度の自然災害が貧困をもたらす岩木川と自然の恵みをもたらす筑後川の相違を説明し、自然環境や気候の相違が社会生活にもたらす影

響について説明していただきました。弥生時代の吉野ヶ里の説明においては、縄文時代の三内丸山遺跡とことなると、三内丸山遺跡では窺い知れない稲作文化圏の特徴としての村と村の争いという戦争が社会現象として現れることを1つのテーマとして説明されました。

肥前名護屋城に関しては、全国の戦国武将が佐賀の一角に突如として出現する歴史の問題に学生は大きな関心を抱いたようです。

また、佐賀城本丸公園においては、幕末の佐賀藩の文化と技術についての説明に参加者は興味を示していました。

### 地域創生専門部会

#### 勉強会「筑後川と有明海の歴史と環境問題」

3月17日に大川市文化センターにて勉強会を行いました。

最初に、日田市大山の森和恒さんから、大山川・三隈川の水量増加運動の経過と今日までの成果についての報告があり、その後、大山川の水質問題解決のために、下釜ダムと松原ダムを迂回するバイパス構築に関しての説明がありました。

次に、大川市議長の川野栄美子さんから、今年の有明海のノリ養殖の報告があり、朝倉市の災害のおかげで筑後川下流域まで風倒木が流れ着いて大変迷惑をした。しかし、ノリの発育状態にとっては逆に良い結果が出ていることを不思議がっているという報告がありました。森さんたちの意見では、朝倉の自然災害のおかげで筑後川の砂利の供給があり、ノリの養殖に貢献しているのであろうということでした。

最後に、大矢野栄次より、有明海の歴史から有明海には多くの人を養う資源が一定量以上あったことを説明されるとしていくつかのモデル例を挙げて説明が行われました。本勉強会には13名の参加者がありました。



### 地域創生専門部会

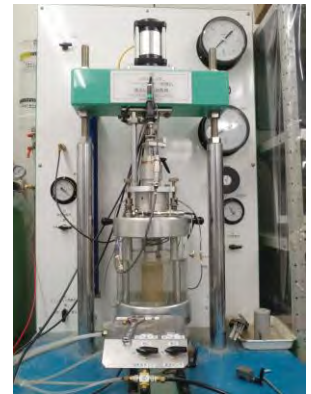
#### 刊行「佐賀とは何かⅢ」, 「筑後川の価格」

毎年発行している「佐賀とは何か」の第三弾と筑後川の自然をお金に替えるといくらになるのかという内容の冊子が刊行されます。

#### 佐賀大学低平地沿岸海域研究センター廃止

この度、平成30年3月をもって、低平地沿岸海域研究センターは廃止されることとなりました。これまで低平地沿岸海域研究センターの研究教育活動を支えていただきました関係者の皆様には、厚く御礼申し上げます。来年度より、当センターの教職員は、それぞれ別の部局に移動することとなります。各教職員の部局は変わりますが、これまで同様に研究教育活動は続きます。関係者の皆様には、変わらぬご支援のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

近年我が国では地震・豪雨といった自然災害が頻発しており、九州においても先の熊本地震では多くの液状化被害が発生しました。当社では、このような災害への対応を考慮し、地震時に対するより詳細な設計、対策へとつなげていくため、繰返し三軸試験機を県内で初導入しております。今後ともより有用な試験を目指して、社会資本整備貢献したいと考えています。



繰返し三軸試験機  
(液状化・変形特性)

### L T I ジャーナル Vol. 19、No. 3 の発行

英文機関紙「Lowland Technology International」Vol.19、No.3が発行され、6編の論文が掲載されています。

タイトル	著者
Water supply damage caused by the 2016 Kumamoto Earthquake	B.P. Wham, S. Dashti, K. Franke, R. Kayen and N.K. Oettle
Investigation on the damage to Kumamoto Castle stone wall related to the 2016 Kumamoto Earthquakes	T. Ohsumi
Sediment disasters caused by the 2016 Kumamoto Earthquake and regional disaster history	M. Suzuki, K. Kagohara, K. Sakaguchi, H. Matsugi and S. Kataoka
Liquefaction during the Kumamoto Earthquakes on April 14 and 16, 2016	K. Wakamatsu, S. Senna and K. Ozawa
Geotechnical damage due to the 2016 Kumamoto Earthquake and future challenges	H. Hazarika, T. Kokusho, R.E. Kayen, S. Dashti, H. Fukuoka, T. Ishizawa, Y. Kochi, D. Matsumoto, H. Furuichi, T. Hirose, T. Fujishiro, K. Okamoto, M. Tajiri and M. Fukuda
Instability of residences founded on volcanic cohesive soils during the 2016 Kumamoto Earthquake	K. Yasuhara, H. Watanabe, K. Kobayashi, M. Yoshimi, Y. Arai, S. Hosoya, M.S. Tajiri and S. Murakami

#### 編集後記

今回をもってニューズレターの編集委員長を交代いたします。今後ともよろしく願いいたします(森田)。  
編集：森田 (佐大:ss5263@cc.saga-u.ac.jp)、江頭

-お問い合わせ-  
〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1  
佐賀大学低平地沿岸海域研究センター